

# 貧困なき世界をつくる

「貧困なき世界を目指す銀行家」といわれる、ムハマド・ユヌス氏。世界六十か国以上に広まりを見せている「マイクロクレジット」(貧困層を対象とした少額の無担保融資)など、これまでの常識を打ち破る様々な知恵はどこから湧き出てくるのか。二〇〇六年のノーベル平和賞受賞以前より、氏の活動に注目し続けた上甲晃氏が、本国バングラデシュのグラミン銀行本店にて、三日間にわたり、インタビューを試みた。



グラミン銀行総裁  
ムハマド・ユヌス

1940年バングラデシュ・チッタゴン生まれ。チッタゴン・カレッジ、ダッカ大学を卒業後、チッタゴン・カレッジの経済学講師を経て米ワシントン州立大学で経済学博士号を取得。72年に帰国後、政府経済局計画委員会副委員長、チッタゴン大学経済学部学部長、83年グラミン銀行を創設。その歩みは「ムハマド・ユヌス自伝—貧困なき世界を目指す銀行家、「貧困のない世界を創る」(ともに早川書房)に詳しい。マダライサイ賞、世界食糧賞、日経アジア賞、旭日アジア賞など数々の国際的な賞の他、2006年にノーベル平和賞を受賞している。

志ネットワーク代表  
上甲 晃

じょうこう・あきら——昭和6年大阪府生まれ。40年京都大学卒業、松下電器産業(現・パナソニック)に入社。56年松下政経塾に転任し、平成7年10月まで同塾塾頭、常務理事、副塾長を務める。8年松下電器産業を退職し、志ネットワーク運動を展開。青年塾などを手がけている。著書に「志のみ持参」「志を教える」、近刊に「松下幸之助の求めたところを求める」(いずれも教知出版社)など。

## インタビューの前に

バングラデシュのグラミン銀行総裁である、ムハマド・ユヌスさんに、もう一度会いたいと思いついたのは、ユヌスさんが二〇〇六年、ノーベル平和賞を受賞したからではない。私は今年の三月十五日、箱根・仙石原の文化センターで、日本、この手で何とかする」と名付けた運動を立ち上げた。漂流する日本、行き詰まる日本、閉塞する日本の現状を目の当たりにするうちに、とてもこのまま、見て見ぬ振りではできない。日本の現状を、私たちの手で何とかしなくてはならない。そんなやむにやまれぬ思いが、昂じてきたのである。

箱根での会合に、全国各地から、五百五十人もの人たちが馳せ参じ、もはや政治家任せ、他人任せでは、何も解決しない。私たちの手で、この日本を何とかしようではないかと、全員で熱い契りを結んだ。

七月十七日、今度は、東京日比谷公会堂で、日本、この手で何とかする運動に共鳴する政治家有志が集い、いい国つくり日本を共に目指すことを誓い合った。同志の数は、千五百人に増えた。国民の知恵と努力により、新しい日本をつくり、「子々孫々に誇れる日本をみんなで作ろう」「日本人の一人ひとりが、夢と希望に溢れ、活力に満ちた国をつくり、みんなの夢は、一致した。その間、私は、「新しい日本」のかたちを考えながら、過去に